



おおあした
大旦

繋ぎたる命のバトン大旦 佐藤八千子

大旦は、元旦、鶏旦とも。一月一日の朝を寿ぐ意をいう。

「過去無量のいのちのバトンを受けて、いま、ここに自分の番を生きていく」相田みつをの言葉です。「自分の番」をしっかり心に留めながら、新年を寿ぐ一行詩になりました。

今月の推薦句

大好きな蕪どっしり齡重ね

蕪は冬の季語。霜にあたった蕪は甘みが出て美味。大好きを言わずにおれなかった作者の心情が「どっしり」で伝わり、蕪にも齢にも取り合いながら共感の広がる句に仕上がりました。

原田 勝子

丁寧に米研ぎするやお元日

新しい年を迎え気持ちも新たにになりました。ばたばた過ごした晦日と思いながら、丁寧に正月のお米を研ぎます。下五が新たな気持ち伝えていきます。

小田 純子

寒鰯をコトコト煮るや誕生日

鰯は成長するにつれて、名を変えるので出世魚とも呼ばれています。誕生日はお孫さんでしょうか。気がつけば、子や孫の成長ばかりを考えてしまう歳になりました。

日野ムツ子

俳句の基本

拗音は一音

読者俳句

九重寿大学文芸部 一年間の活動結果発表

寿大学文芸部は一年間の学習成果を毎年「十句集」にまとめ発行しています。年頭にあたり令和三年の部会員の優秀作品を紹介いたします。

- 平成も残り百日霜の朝 佐藤 文雄
- 葉桜や本音の言える齢になり 西田志のぶ
- あたらしき涙と出会う終戦日 甲斐加代子
- 述懐は影絵の如しとろろ汁 竹石 末子
- いつせいに蟻のふりむくパンの耳 時松由美子
- 朝寒やひとり包むたまご焼き 甲斐 順子
- 誉めぬまま父の遺せし秋桜画 林 香澄
- 七十路のホップステップ梅日和 吉光 好美
- 渡り鳥虚空に道あり我もまた 内田トシ子
- 窓開けて逃がしてやりぬ鬼やんま 時松 干城
- 新稟や腰を下ろして見る夕焼 竹尾きくみ
- 終活や母の単衣の花もよう 志賀 文子

(選者の声) 新たに新人三名を迎え、楽しい句会が続いています。興味のある方はいつでもご自由にご参観ください。お待ちしております。

佳作 二十席

- 小春日や日付昭和の母子手帳 律子
- うろこ雲お空動かし東へと 香澄
- 親も子も静かに消ゆる雪兎 豊國
- 女正月ダイヤモンドに指通す 良子
- 薄味に心掛けたる女正月 左世美
- 山眠る裾野ぐるりと久大線 則子
- 終活を理由に終いの賀状出す 直人
- 眠り田の来る年思う師走かな ヨウ子
- 冬薔薇手折られしは夢の中 トシ子
- 初夢や米寿間近の富士登山 泉 溪
- 泡沫の三社詣でや六つの花 一主
- 年の瀬や順序不同の住所録 末子
- 冬霞限界の里風の鳴く 桐友
- サンタ来る信じる孫や五年生 重吉
- 大根漬去年の色粉探しをり チズ子
- 来る年や五黄の虎にあやかたし 好美
- 三俣山初冠雪や季は移り 文雄
- 冬晴れや空にきこりの声響く 次江
- 廢屋の思い出つきぬ紅葉かな 文子
- 初日の出茜ににじむ三俣山 ヤスコ

(選者・評) 新年、明けましておめでとございます。好美さんの句にもありましたが、本年は三十六年に一度の「五黄の虎」とも呼ばれる年です。昭和二十一年、六十一年、令和四年の人がこれにあたります。「五黄の虎」生まれの人は、自分の信念を持ち、何をいわれても曲げない性格で実行力も人一倍とか。五黄の虎年生まれにあやかって、俳句もかかいたいものです。このコーナーは、俳句をしない方から人も「見えますよ」とお声をかけられ、いつも心はほっこりします。俳句は、「詠む人」と「読む人」がいて成り立つ文芸です。本年もご愛読よろしくお願いたします。

2月号の締め切りは、九重町役場企画調整課まで1月26日(必着)でお願いいたします。